京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可らず

明治四十三年 紀元二千五百七十年
本紙定價 ▲一枚金二錢 ▲一ヶ月前金[illegible] ▲三ヶ月前金[illegible] ▲六ヶ月前金[illegible] ▲郵稅一ヶ月十三錢
月曜日及び大祭日の翌日は休刊（日刊）
廣告料金 ▲五號活字十七字詰一行一回金五十錢 ▲雜報欄特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢
發行兼編輯人 高木久馬太
印刷人 松久紳一郎
京城西署西小門通（電話六六(二三)）
發行所 京城新報社

漢字と社會

文學士 [illegible]

漢字及び國語調査會が設けられ教育上に於ける漢字及び國字に就いて既に學者教育家の議論が紛糾せらるゝ事となれり。恰も漢學復興の時節柄として時宜に適した結果であると信ずる。支那に於ける此の調査の着手が時勢の急要に迫られて起つたものであるないの論は暫く別として、最近日本全社會が期せずとして漢字の復興を唱ふるに至つた理由は素より種々あるであらうが、彼のローマ字論並にその派の世論に對する一反動的現象の發現と見ても敢へて不當なことではあるまい。從來漢字を非難した論は殆んど總べて眞面目に漢字の研究を積んだ上の論ではなくして所謂食はず嫌ひの論であつた、如何にせば社會に普通の漢字を効果よく教へることが出來るか、と云ふ方法上の研究は甚も積まずして、唯面倒なから教へないかと云ふ風なやり方であつた。漢字は因襲の久しき國民の之に對する一種の感情上純日本語を使つて話すよりも漢語を使ふ方が氣が利いてよく感ぜられるとも云ふその間はゆめ漢字の棄てられるなど云ふことは斷じてあるまい、然して明治昭代のわれ〳〵は漢字の必要を繰り返して漢字を[illegible]にばかり掛けるばかりが能ではない、若し假りに今日の漢學復興が原理に舊來の漢字に對するやうな態度の上に樹てられるものであるならば折角の漢學復興の効果はその半ば以上を減ずることであらうと考へる。

漢字は死字でない以上之に對して明確なる活眼を以つて十分の調査研究が望まれなくてはならぬ。舊來漢字の研究例へば唯字典に見ゆる劃引分類の他但し嘗ぶかつた、然るに近時漢字に通じ語々數々多きを加へたるに屋通國が彼の一介語及び音韻の方面爲めに斯かる會員が根本的調査を事に依て是を見れば『研究』と題してあらざるべし

▲吾妻樓の若米 如くして得たる[illegible]は共[illegible]口素と形本（東京日本橋[illegible]）

位に出來又最感じて居る文字故從來の形一方のみの觀察では手輕くまとめることはむづかしい、反之言語音韻の方面からする時は五千六千の漢字の間に實調なる系統を樹つることが出來る。何係字係音觀字の如きも純粹の系統を以つて律することが出來る此度の『文字の研究』（千五百餘頁）は既刊『漢字書の系統』以外に更に諸種の漢字の調査せしものを教育上、文學上、歷史上の各方面より詳述したるものである、併自分は淺學不才、世の教育者、一般江湖の助力を得て相提携し實地と學術の兩方面より今後益々之が研究調査を接續して行きたい積りである。

醉駄吟

むの字

霧桐江兄は京釜線へ小子は京義線へ轉線と云ふも鳴滸ながら出張を命ぜられたるより元より使命は辱かしむるを承知でイザ出立と云ふ一日夜に手傳ひを申し付ける韓小童の母なるものが死に瀕せりとの報を得たるより他に世話するものもなき彼れの心細かるべく思ひやせん死に行く身は餘儀なしとするも後に心置かせず冥路に旅立たするも功德とならむと妻をして醫師仲はせ見舞ひの爲め訪問せたるより遂に出立の機を失したること只に殘念のみならず讀者及び社長に對して甚だ申譯けもなきことに心苦しき限りながら事情右樣の次第御寛假を仰ぎ申す也

心痛したる韓小童の母の病氣も二日夜に至りてさせる惡にもあらずと判明したるより安心の眠を眠りて三日朝、龍山に先づ中扇子を訪ふ、靈城子と途に遭ふ新義州に行かれたりと聞ける子の如何にしても斯かる節段の話して歲程と背かせ共に中扇子許過る、主人在らず妻女に强請りて酒を汲ひ、陶然たる頃中扇子又陶然として歸り來る、此の上强いては惱るまじと直ちに辭して月哉子許訪ふ、座に淡水、春葉、荻水、月哉子の妻女玉糸女、主人月哉子に加ふるに二春庵宗匠等あり、橫逸すべからずとて

醉餘吟

●鬼の骨抜け○よ劍菱●福壽草 むの字
●新年や同志打ち寄る座敷内 玉糸
○即身や目出度祝ふ門のまつ 春葉
●屠蘇汲むや交す美人の艶姿 淡水
○運び行く望む彼岸に初日哉 月哉
●田作りや次第に回る酒の杯 二春
○禮拜の拍手飛びぬ嫁が君 荻水

右句中○は結び字●は題にして所謂盲目回しなり、次は題『初東風』

初東風や梅の香浴る日の光 月哉
初東風や目に障る物消えし 玉糸
初東風や故郷の梅の香の[illegible] 淡水
初東風や一杯に讀る百反帆 荻水
東風吹く居酒に醉たる身の先 むの字
初東風に笑む木々の梢より 二春

醉ふて件の如き一味の連中、誰れやらが、題に『若水』を出して吟れと云ふ

若水や明星光る井戸の底 荻水
若水や下女もたすきの掛初 淡水
若水に寫す心のまことかな 二春
若水や木火土金の星の照り 月哉
若水や橫向く影の長うして 春葉
若水や運ぶ後にきりのこゐ 玉糸
鬼も顔洗ね若水星わかり むの字

和歌

○新年雪 鳥致院 西頭生

門松の枝もたゆみて降るゆきは
今年もみのるしるしなるらん

○

あらたまのとしのよことや奏すらん
そのへの竹は雪にふしつゝ

○

ふりつもる雪をしのぎてさくうめは
高麗のはてまで匂ひけるかな

新年の新刊雜誌

▲實業之日本 ▲新渡戸博士の逆境に處する修養法は外國の關係より逆境の仲類等を說述した處は處世術に大訓誨を與へて居る▲井上侯の既往を感想して維新前よりの各正月に最も愉快に感じたる正月などは實に侯の青年時代が偲ばれる▲大隈伯の伊藤、井上兩友比較論は兩氏の政治振り人格伊藤公を智者と井上侯を勇者とし最後に兩氏の政治的關係を論じたるは大隈一流を遺憾なく發揮されて居る▲坂谷男の不景氣の原因既に去りたるを知らざるかと題したる財政觀に實業之日本新年號の花形にて日露戰役より現在將來を論じ盡したるは最も聞くに値す（東京々橋區紺屋町同社發行）

▲新公論 ▲大隈伯の世界大局觀、萬報一覽等讀むの値あり（東京本郷區東片町同社發行）

▲東京經濟雜誌 ▲小林博士の關稅問題と自由貿易說最も當を得たり（東京々橋區羅左衛門町經濟雜誌社）

▲東洋時報 ▲勝田理財局長の滿州經濟的觀察あり（東京麹町區内山下町東洋協會發行）

▲滿州實業 釜山滿韓實業協會發行

▲明治の家庭 東京實文館發行

▲銃獵界 橫濱金丸銃砲店發行

▲刀劍會誌 東京麻布霞町花月庵

▲統監府特許局法規類集

▲韓國外國貿易月表 關稅局

▲新衣裳 京都烏丸高辻南高島屋發行

▲碁界新報 說明は素人と雖も一目して解するを得（東京小石川久堅町碁界新報社）

日本銘刀傳

第十二席 邑井一 講演

翌朝になると其内の一人が 甲『お早う』と魚屋の店へやつて來た 魚『オヤ大層早いことで…… 甲『お前さんの店に腐つた鯛は無いかい 魚『串戯言つちやア往かねね、俺の店に腐つたものなどは無い 甲『魚屋さん、腹を立つては困る少し肥料にするのだから古るくても宜い、賣殘りの魚はねいか 魚『肥料にするなら此所に鯛が二枚ある、是れは一昨日のだ、宜ければ持つてお出でなせい 甲『幾錢です 魚『代價は入りませんから持つてお出でなさい 甲『無代價ふことはない、いくら上げたら宜いでせう 魚『いくらでも宜いから……お前さんの思召で置いて往きなさい、私の方は何うでも宜いのだが…… 甲『それぢやア鉢へ置いて往くよ』何干かの金を置いて其鯛を買つて來た、一同の集つて居る所へ來て 甲『さアプーンと臭いのする鯛を買つて來た、魚は是れで宜いから早く惡樽を捲らへろ』と云ふので、酒の空樽を買つて來て小便を引込んで、イヤもう酷いものが出來ました、それを一同がワッショイ〳〵と擔いで兼光の宅へやつて來た 甲『御免なさい〳〵 兼『何だい、麻上下を着て酒肴を擔いで何うしたのだ、氣でも違つたのではないか 乙『イエ、氣も何も違ひは致しません、今日あたり多分都から御狀文が來るだらうと、夫れを拜見に參つたのでございます、若旦那が日本國の宗匠となられるのは確かなものだと存しまして、詰らんものですが、御酒と肴を用意して御祝ひに參つたのでございます 兼『之れやア何うも氣の毒だな、手前達の買つた酒を飲んだつて咽喉へ通りやしねゝけれど、折角の親切だから貰つて置くことにしやう、さア皆ズット此方へ上んな』親父の兼光もそれへ出て來て 兼『まだ許が日本國の宗匠になるかならねか分りもしねゝに、其樣な前祝ひをしてくれては困る、多分今日は都から何とか便りがあるだらうから其便りがあつてから、飲むなら飲むが好い、其酒樽は玄關に飾つて置け、兼光や人様が彼是褒めて下すつても、決して圖に乘つてはならねゝぞ 甲『お親父さん、ナーニ御心配なさるにやア及びません、若旦那の兼光さんが日本國の宗匠となるに極つて居ますア 兼『まア〳〵外に刀鍛冶らしいものはないから、私を越れた日本國の宗匠になるものはないな 兼『コレ〳〵又自慢を言ふ、夫れが宜しくないと言ふのだ、俺は今年六十七になるが人に自慢と云ふことを言つたことがねゝ』と話をして居る所へ、ワッショイ、ワッショイ〳〵〳〵玄關の式臺へドンと下して『御上文ッ』甲『ソーラ來た、早く拜見してねもんだ』やがて御上文の箱を座敷へ運び入れる、若旦那兼光は[illegible]として、御上文の箱を開けて取出す御上文、披いて讀んで居るうちに兼光の顔色が朱の如くになり身体をブル〳〵ッと顫はしたのも無理はない、御上文の最初に日本の宗匠は相模國の住人、五郎正宗たるべきものなりと、ちやんと書いてある、夫れより一段下つて備國の刀鍛冶の名が廿三人書いてある兼光は廿一番目だ 甲『何うか御番付さを拜見致したうございます 乙『日本國の宗匠の御番付を拜見致したう存じます』兼光は口惜涙とハラ〳〵と流して 兼『見るには及ばねゝ、日本國の大宗匠は相模の正宗だ 乙『オヤ〳〵それは飛んだことでございます 丙『若旦那は何人目で居らつしやいます 兼『面目ねゝ廿一番目だ然しこれには餘程佐最負があるであらう 丙『オーヤ、オヤ、廿一番目が兄イ、若旦那のお蔭で刀も賣れさうもねゝな 甲『さうよ、もう〳〵備前に居ることは止しにしやう、妻子のあるものは仕方がねゝが、俺達のやうな獨身者はもう此の長船の地を去つて相模へ往つて正宗さんのお弟子になることにしやう、正宗さんのお蔭で俺達の刀も賣れることになるだらう 丙『さうだ〳〵』と二十人許りのものがドャ〳〵ッと表へ出て行く、兼光の内弟子も荷物を纏めて出て往きます、兼ねてもう出る覺悟で內々支度をして居たものと見ねます。



電報

▲宴會 本日 陛下より勅語 各國大使奉答し玉盞 て

▲陛下の御宴（五日） 皇后 陛下御されたり（五日）にも各宮及妃殿下を召され御宴を催はされたり（同上）

▲各省の新年宴會 各省に於ても同じく新年宴會を催ほせり

▲北白川宮の御着帶 北白川宮妃房子殿下には御妊娠九月に及ばせらるゝを以て九日御着帶式を行はせらるゝ筈なり（同上）

▲韓國謝罪使東上 同一行は昨日下關に着し直ちに東上の途に就けり（同上）

▲日露船車の聯絡 日露連絡輸送會議第二回は一月中哈爾賓に於て開催協商を遂げたる上二月頃より實施の豫定なりと（同上）

▲議會と韓國問題 今期議會に於て進歩黨政友會又新會は統監政治に關し何れも猛烈なる質問を試むる筈にて目下詳密なる調査を爲しつゝあり（六日）

▲曾禰統監の消息 曾禰統監一行を乘せたる光濟號は海路無事五日午後一時馬關入港曾禰子は隨員と共に上陸春帆樓に投宿伊田中縣市長其他官民の訪問を受け同夜一泊せり（六日發）

▲輿論と廟議進展 政府は輿論の趨勢に鑑み此際日韓關係進展の必要を感じ統監の歸朝を待ち廟議を決し議會開期中に實行する方針なりと傳へらる（同上）

▲榛ケ香丸の受渡 第二韓國號榛ケ香丸は鎭海院へ賃貸の交渉纒まり來る十九日相互受渡を爲すに決せり（同上）

▲地方功勞者表彰 農商務省にて調査中なる地方功勞者表彰は近々發表すべしと（同上）

▲米觀光團の入京 米國觀光團一行本日横濱に入港す歡迎非常に盛大なり（同上）

▲曾禰子の着京期 既電曾禰統監一行は今六日光濟號に搭乘し馬關を出帆せり途中宮島、高濱に各一泊八日午前大阪に上陸し同夜の夜行列車にて九日午後二時十分新橋驛に到着すべしと（同上）

▲謝罪使の東京着 韓國謝罪使二名昨夜新橋へ到着せり彼等は一週間滯留し伊藤公の墓前に詣で謝罪文を捧げ自國人の手に殪れたる公の兇變を悼み懇ろに謝罪の意を表する筈（同上）

▲東京消防出初式 本日消防出初式を行ひ各種の餘興等あり盛んなりき（同上）

▲高齡者に御下賜 七十歳以上八十歳迄の有位有勳者に本月末御紋章附杯及酒肴料を御下賜相成る筈なり（同上）

北京電報

▲露商人と清官憲 露國商人は松花江航行の請願を爲したるも北京清國官憲許可せざりき（六日）

▲希臘の危機落着 希國政府は陸軍協會の要求たる内相辭職及次官廢止に同意し之にて危機全く落着したり（同上）

▲西班牙再び擾亂 西班牙バロセロナにて復擾亂發生せんとし非常警戒中なり（五日着）

▲匈牙利内閣の交迭 匈牙利内閣は交迭しルカクス内閣を組織すべし（同上）

歐州電報

▲佛飛行家の慘死 佛國飛行家ツラガンヂ侯は飛行中空中より墜落し慘死を遂げたり（六日）

▲軍事會議の効果 白耳義ブラッセルス府に開會中なりし軍事會議は何等の効果を得る所なく終に散會したり（同上）

▲英國兩黨の活動 英國自由、統一の兩大政黨は新年に入りて一大活動を開始し各地に演説會を開き黨勢擴張に努め居れり（六日）

續報

宮中の新年宴會

韓國宮中新年宴會は一昨五日正午より昌德宮に於て開催せられたり當日大久保軍司令官、石塚總務長官事務取扱、木内、岡、俵、倉富、小宮、福田、國分、小松の各參與官、若林警視總監、明原憲兵隊長、明石參謀長、鍍邊院長、國分檢事長、世古、城、中川、中村各判檢事及李佐川、市原兩總裁及各部大臣各理事及中樞院顧問官等六十餘名は何れも金色燦爛たる大禮服を着し午前十一時相前後して入闕正午韓皇には閔宮相、尹侍從院卿を隨へ仁政殿東行閣に出御一同に謁を賜ひ右の勅語ありたり

新年に當り在京の日本人文武親勅任官及び我高等文武官と相會するは朕が悦びに堪へざる所なり卿等歡を盡くせよ

之に對し大久保軍司令官は邦人文武官を代表し左の奉答を爲せり

新春に當り我文武官に宴を賜はりたるは感謝に堪へず一同に代はり御禮申上ぐ皇上謹で首班大臣署理として奉答し次で朴内相は首班大臣署理として奉答し一同朝鮮料理の饗應あり午後一時退闕したり

兩年度豫算比較

（歳出に關する比較）

昨今兩年度豫算歳入の比較は既報したるが如し更に本年度の歳出を比較すれば今年度の經常部に屬するものは千五百三十九萬五千[illegible]臨時部に屬するものは五百五十二萬三百九十八圓なり此を前年度豫算と比較すれば隆熙四年度に於て經常臨時費を合して八百三十一萬七千七百七十一圓を減じたり今其減額したる主なる事項を示せば

經常部に在りては度支部所管に於て國債元金の償還、國庫證券の利子等を減じたると軍部及法部の廢止に依り其經費を要せず農商工部所管に於て鑛業官營費を要せざる爲めに合計四百二十九萬七千七百八十七圓を減じたり然れども内部所管に於て水道工事の落成に伴ひ水道事業費を要する經費增加及び大韓醫院[illegible]經費を度支部所管に於て土地調査費の加增、財務署に要する地方財務署費、稅關監視署の新設及び檢疫所經費の增加したると製鹽事業開始に伴ふ經費の增加したると稅關監督局の增設[illegible]の增加、稅關監視設備に要する關税[illegible]學部所管に於て公私立學校監督に關する經費の增加と農商工部所管に於て度量衡事業擴張の經費を要し漁業法の施行に伴ひ漁業法の[illegible]增加したる等に依りて合計百四十二萬九千二百十五圓を差引二百八十六萬八千五百七十二圓を減じたり

臨時部に在りては[illegible]水道工事費を要せざると治道費、仁川水道工事費既定額の減じたると度支部所管に於て韓國銀行、貸付金、農工債券引受金、宮殿營造費、監獄建築費を要せざると金融組合資金、臨時財產整理費、各郡廳舍及び官舍新營費の減少する等に依りて合計六百二十五萬六千三百五十二圓を減じたり然れども内部所管に於て臨時水上警備費の增加、度支部所管に於て鹽田擴張費、韓國議會新營設備費と既定年割額の增加、學部所管に於て實業學校增設等に關する學校補助費の增加と農商工部所管に於て擴張費を要する等に依りて合計八十一萬三千五十三圓增加したる爲め差引五百四十四萬五千二百九十九圓を減じたり

徴税手續の變更

京城民團に於ける收税吏中數名の惡漢現はれ共謀して納額告知書を僞造し巨多の金額を收納して之を横領し遂に其筋に檢擧されたるは返す〴〵も民團の大失態なるが右は徴税手續其宜きを得ざる爲めにして此不備に乘じ斯かる醜行を敢てせしめたるものなれば此際之が改定は最も要急なりと認め目下調査中なり而して從來の手續によれば吏員を各戸に派遣して徴税を爲さしめたるも今後は一般國税納付の例の如く納額告知書に納付日時及場所を指定し各個人をして持參せしむる樣に改定すれば調定吏員と現金收納吏員との權限自ら明かにして容易に奸手を弄するの機なかるべく且つ一方徴税費を大に節減し得て一擧兩得たれば不日民會に附議して決定さるべしと云ふ

農銀の半季純益

韓國農工銀行の昨隆熙三年度下半季間の營業成績を見るに運轉資本金即ち拂込資本政府貸下金農工債券積立及繰越金二百八十一萬七千六百十六圓に對し左の純益金を收めたり

漢湖農工銀行	一八、六九〇
慶尚同	一〇、八一五
平安同	一三、五九四
全州同	一六、六八七
光州同	一二、六〇七
咸鏡同	六、八九四
合計	六九、二九〇

因に之を前年上半季に比すれば二萬七千餘圓の增收を示せり

内部本年の新事業

内部所管に於て本年度新たに起るべきもの及擴張すべき事業は左の如し

一 警官練習所の擴張

一 土地家屋證明事務

一 本項は從來裁判所に於て取扱ひ來りしが本年度より内部の所管とし其費用として金千八百五十八圓の豫算を計上せり

一 漢城府に於て主事技手各五名增員

一 各道に日人主事二名づゝの增員

一 地方各部に日人主事百名の增員

一 慈惠醫院の擴張從來全州咸興及清州にわたる慈惠醫院は本年度に於て他の場所にも增設の筈なり

本年の道路工事

内部土木局が本年度の治道費として新たに要求したる費額は四百萬圓なりしが悉く削減せられ昨年より繼續中なる治道費二十九萬四千圓を殘されたるのみなれば來る三四月の交に至らば殆んど工事の終了を告ぐるに依り政府は其の后の治道費として國庫金又は剩餘金より支出する意向なりといふ

舊貨は絶對禁止

舊白銅貨は客月末日を以て絶對的に其通用を禁止したるが同日迄の引上總數額は約九百五十萬圓の多きに達したり

軍司令官の參内

五日昌德宮の新年宴會に拜列し酒饌を賜はりたる大久保軍司令官は昨六日午前十一時三十分參内韓皇に謁見御禮申上げ約十分にして退出したり

●昨年末の外國貿易

隆熙三年十二月下旬の外國貿易に付關税局の調査せし處左の如し

區別	本旬分（圓）	前年同期（圓）
輸出品價	九九九、一三〇	八〇七、三六七
輸入品價	一、六三四、八〇三	二、〇六〇、四七〇
合計	二、六三三、九三三	二、八六七、八三七
輸入超過	六三五、六七三	一、一五三、二二〇

本年貿易額の港別左の如し

港別	本旬分 輸出額	輸入額	計
仁川	[illegible]	[illegible]	[illegible]
釜山	[illegible]	[illegible]	[illegible]
元山	[illegible]	[illegible]	[illegible]
鎭南浦	[illegible]	[illegible]	[illegible]
京城	[illegible]	[illegible]	[illegible]
群山	[illegible]	[illegible]	[illegible]
木浦	[illegible]	[illegible]	[illegible]
馬山浦	[illegible]	[illegible]	[illegible]
清津	[illegible]	[illegible]	[illegible]
城津	[illegible]	[illegible]	[illegible]
新義州	[illegible]	[illegible]	[illegible]
計	[illegible]	[illegible]	[illegible]

次に本年各港の貿易額を前年同期に比較するに左の如し

港別	前年一月以降本旬迄の累計 輸出額	輸入額
仁川	[illegible]	[illegible]
釜山	[illegible]	[illegible]
元山	[illegible]	[illegible]
鎭南浦	[illegible]	[illegible]
京城	[illegible]	[illegible]
群山	[illegible]	[illegible]
木浦	[illegible]	[illegible]
馬山浦	[illegible]	[illegible]
清津	[illegible]	[illegible]
城津	[illegible]	[illegible]
新義州	[illegible]	[illegible]
計	[illegible]	[illegible]

韓國銀行と預金

第一銀行從來の業務一切の繼承を條件として設立せられたる韓國銀行が如何なる理由により最も有利なる京城、釜山兩樞要地に於ける第一銀行支店の存續を承認したるやは局外者の知る能はざるところなるが最近或消息通の報ずるところによれば京城第一銀行支店が從來の預金全部を韓銀に引繼がざりし爲め目下韓銀に於ては國庫金以外に預金としては皆無の姿にて今日の有樣を以てすれば第一京城支店の存續する間は京城に於ける韓銀は到底預金吸收の見込なかるべしとの事なり

●地方費認可と使途

内部より認可の手續を了して各道に設けられたる地方費は悉く[illegible]南道のみ目下訂正中なるが同費の最も多き所は慶尚北道の九萬圓にて少なきは咸北の六千圓なり而して全道を通じての總高は約六十萬圓にして之れが使途の重なる者は道路費直ちに効果の見らるべき事業、勸業費、種畜場、救恤費、罹災救助金等に使用する筈

●外人倶樂部の宴會

西部江華坊貞洞なる外國人倶樂部に於ては昨年十二月三十一日午後九時三十分より歳暮の宴會を開きたるが出席者は英、佛、露、獨、等各國の總領事領事夫妻等約八十餘名にして役員の改選を行ひたるに佛國總領事バヤ、英人ブラントン大韓毎日申報社長マナム英人パル氏外一名其選に當りたりと云ふ

●韓政府の機業奬勵

韓國にては農家の副業として機業行はれ就中忠清南道、慶尚北道は最も盛なる處なるが農商工部にては機業を奬勵の爲め本年より機業の巡回教師二名及び助手二名を置きて地方を巡回せしむる事とし勸業費中より機業費として六千七百七十二圓を支出する事になりたり

●韓政府の商工調査

農商工部に於ては本年より向ふ二ケ年を期して全國の商工業を調査することに決定し既に本年度に於ける其經費も豫算に計上したるが同部商工局の新事業として早々着手する筈なりと云ふ

●駐韓軍觀兵式中止

來る八日の陸軍初めには駐韓軍に於ても觀兵式を擧行せるも本年は之を擧行せざることに決定したりと云ふ

●救世軍司令官歸京

釜山方面へ旅行中なりし救世軍司令官ホガード氏は去る四日午後八時二十分西大門着の列車にて歸京したりと

●在馬山露領事入京

馬山駐在露國領事バシリエップ氏は去る四日午後八時二十分西大門驛着列車にて入京直ちに同國領事館に入りたり

●中村氏母堂の逝去

農務局長中村彦氏母堂秀子刀自は急性腦充血病に罹られ森安博士村上醫學士等の手當を受けたるも其効なく五日午前二時遂に逝去せられたり、葬儀は來る八日午後一時旭町三丁目龍岡寺に於て執行する由なり尚中村氏は目下官用にて東上中なるが明日歸城せらる筈なり

●石塚長官の招宴

石塚總務長官事務取扱は五日午後六時より東京英國大使館參事官ロガヂオ氏及京城英國總領事ボナール氏外數氏を官邸に招待せり

●敍勳

昨年十二月二十五日付にて左の通り敍勳ありたりと云ふ

敍勳七等瑞寶章 鑛業院技師正七位 河内 明鮮

同 上 松田 一穗

韓國財務機關（二）

（四）從來度支部の一局たりし檢査局は會計檢査勵行の必要上新たに度支部大臣の管理に屬する獨立官廳となり（五）水道施設事務は度支部の所管を離れて内部に移屬し（六）從來全然特別會計の下に韓國關税事務を獨立事業せし總税務司廳は廢止となり更に關税局なる名稱の下に度支部大臣の管理に屬する獨立官廳となり（七）從來の地方徴税機關を廢止し更に内國税務及び地方財務監督機關となして全國に五ケ所の財務監督局並びに執行機關として財務署二百三十一所を設置せり

帝室官制改正の重なるものを擧くれば（一）隆熙二年六月勅令第三十九號を以て宮内府所管及慶善宮所屬の不動產並びに從來宮内府に於て徴税せし驛屯土を國有に移屬するの件公布せられし結果七月勅令第五十五號臨時財產整理局官制の發布を見該局を度支部大臣管理の下に國有財產及び帝室債務の整理に關する事務を掌理する事となり（二）光武三年以來帝室財產の一として宮内府經理院に於て專ら之が經營をなせし紅蔘專賣事業は隆熙元年十二月勅令第三十五號を以て國庫收入と定められ所管を度支部に移屬せられたりしにより同二年七月司税局の蔘政課を增設し該事務を掌理する事とし（以下次號）

聯合賣出し成績

京城日本商店四百戸の客歳末聯合大賣出しは景品券準備總數七十万枚に對し六十四萬枚を發行し豫定計畫に對しては甚だ振らざるの觀ありしも斯は乃ち計畫過度の結果にして必ずしも悲觀すべき成績にあらざるが如し現に一般の概況は非常の好況裡に終了し各店の賣出高は近年稀有の有樣を呈したるによりても察するに足る而して今各商店中景品券五千枚以上を發行したるものを調査するに左の如し

龜屋商店	四一、〇〇〇枚
辻屋商店	三五、〇〇〇
山口呉服店	一八、七〇〇
山枝呉服店	一二、〇〇〇
鐵居商店	一一、〇〇〇
末永呉服店	一〇、一〇〇
大上商店	一〇、〇〇〇
日韓書房	一〇、〇〇〇
丸一呉服店	九、五〇〇
平田商店	八、五〇〇
桑原商店	八、〇〇〇
町田文次郎	八、〇〇〇
富田商店	七、四〇〇
岡桑商會	七、〇〇〇
鹿木商店	六、二〇〇
明治屋支店	六、〇〇〇
池田長兵衛	六、〇〇〇
河村百藥號	六、〇〇〇
京城商行	五、五〇〇
青木堂	五、〇〇〇
四ケ所商店	五、〇〇〇
久保田商店	五、〇〇〇
園城呉服店	五、七〇〇

如上二十三商店を除けば他は何れも五百乃至千枚のもの最も多きを占むる由

民團事件の進行

（朴檢事の家宅搜索）

京城民團吏員が公金私消の爲め市政の紊亂を暴露したるは既報の如くなるが六日午前十時頃[illegible]名は實業商民長熊谷賴太郎氏及び助役林田茂七郎氏宅に赴き家宅搜索をなし關係書類等一切を押收したるが同判檢事所名は一先づ南部警察署に引上げ樓上にて晝食を終り午後二時頃更に出張警部以下を伴ひ民團役所に赴き古文書等嚴重搜索取調をなしたるが此間局員は勿論外來人等一切出入を禁じたり

●尹致昊の米國行

耶蘇青年會館の尹致昊は近々米國に於て開かるべき耶蘇教大會に出席の爲め近日出發するに付き六日夜會館に送別會を開きしと

●井上氏の出發期

農商工部の囑託を受けて歐米各國を巡遊する筈なる井上雅二氏は來る十二三日頃當地出發して一先づ東上する筈なりといへり

●三浦理事官歸任

馬山へ旅行中なりし三浦京城理事官は六日歸任したり

●岡正矣氏の歸任

歸朝中なりし鐵道管理局營業課長の岡氏は五日歸任す

△治外法權▽

曾禰統監は身が不治の難症に罹れるを覺り今生の思出に今度の上京を機とし兩國を纏めて統治權委任を決行すべしと豪語したツーだ、記者は荒助子が病臭猫を嚙む的の事に出づるを憫笑するものであるが聞く時に惡い事でないから成べく成効さしたい△只茲に疑問とすべきは東京方面で曾禰子に統治權委任協約締結の權を委すべきや否やである、尤も今日に於ては合併でも統治權委任でも東京の方さへ纒まれば譯もなく出來ることではあるが曾禰の手腕はドーかなど〻と二の足を踏むものが無いとも限らぬ△一進會は合邦には贊成だが合併には反對だ、ソレは貴會の御都合上ドチラでも良い、但しあまり喚がずに運を天に任かするがよい△一進會と云へば國會會長の名を以て大阪毎日に合邦失敗記事に關する訂正を申込んで居る、一ボさんも一生童氣になつては始末にをへぬ△近來紳士間に於て書畫骨董の流行することは夥たゞしいものだ、ところで一番の目利きが三宅長策君で、次が大岡力君だツーだ、此頃此社會で評判になつて居るのは澤田牛麿君が或る夜店で堀出しものを仕たこと〻藤原正文君が奇妙な買樣をして骨董商を驚かすことだツーだ、モー一ツ聞逃がしにならぬことは大岡君が曾て多數の畫幅を東京に輸出して大損をしたこと〻小宮宮内府次官が博物館出入の御用商人から何でも格外に安く買込んで自慢をして居らるゝことだツーだ△記者思ふに書畫骨董を捻ねくる遊びはまことに上品で樓上の自然主義にまさることは萬々だ、併し之にも一種の心掛が必要だ、古詞に曰く『あら面白の小島や花をちらさぬほどに嘶け』。

税關傭人の不埒

▲通關業者と結托して　▲不正の金員を詐取す

由來税關對通關業者間の腕關係は腹々新紙上にて暴露されたる處にして近くは彼の仁川税關の通關業者たる板倉土屋の兩店員が檢擧せられたるが如き是が顯著なる事柄に渉つては殆んど枚擧に遑あらざらんとす然に過ぐるは其の調査中にて幾分なりとも一點を穿てる探索ひを爲し居る杉山卯三郎と呼ぶ

仁川税關

鑑定課の傭人が不埒行爲なり彼れ杉山は一昨年十二月初旬税關鑑定課傭人として初めて採用せられたる者にして初めの程こそ至極神妙に立働き居たりしが慣るゝに隨つて次第に其の本性を現はし既に昨年宇頃より土屋板倉なんど呼ふ通關業者等と結託なして不正なる金員を横領なしたる額は決して僅少ならず

▲不相應な遊興　元來彼れが日給なる者は六十五錢にして一箇月の是が計金は僅かに十九圓五十錢なり殆んど衣食にさへ足るや足らずの此の金員の内より

遊興費

に供すべき等の餘裕果して幾何ありや而も杉山は不相應なる美服を纏ひて其處此處の旗亭或は敷島遊廓に入り浸りて金錢を湯水の如く散じ居るに非ずや此等の金圓は抑も何處より湧き出るか此れ彼が惡辣手段に依りて貪り得たる者なるは云ふ迄もなし

▲其の慣用手段　茲に杉山等が常に用ひつゝある奸手段の一例を示さんに假りに土屋通關の取扱ひに掛る一千個の荷物税關波止場に陸揚せられたりとせんか鑑定官は或數の是が鑑定を爲すのみにして其の員數の檢査なる者は一切

傭人任せなるを奇貨

とし彼れ杉山は前記土屋通關と結托なして一千個の荷物を六百個位に申請して以て其の間に得たる四百個の關税を詐取し是を折半して不正の金員を貪りつゝある者なり

▲歴然たる證據　試みに土屋通關屋の店傭として備へ附けある金錢出納簿なる者を繰り展げ見よ一金何十圓也但し

營業費

として杉山卯三郎に渡しと屢々數く記入しあるに非ずや土屋通關が彼の一介の杉山卯三郎に何が爲めに斯かる金員を貸出すか前記の記事に依て是を見れば既に説明の限りにあらざるべし

▲吾妻樓の若米　而かも斯くの如くして得たる惡錢は共謀者土屋、板倉なんどの店員と共に

敷島遊廓

に入り浸り吾妻樓の若米が許に血道を上げて狂ひ居れりと云ふに至つては言語道斷と云ふべし尚此の外税關官吏側の内情にも立至れば剛擧する者決して尠なからずと雖も吾人暫く是を今後に見んとす客年來より

再三

社會に其の醜態を暴露せられながら尚且此の弊を改め能はざるは仁川税關の爲めに惜むと共に是が當局者に嚴肅なる覺醒を促す者なり

東京大相撲新番附

▲初日開場は十一日頃

四十三年一月場所東京國技館大相撲の新番附は二日發表のところ都合により一日延期し三日掲示を以て發表したり今昨年夏場所との新舊移動を對照すれば左の如し

新	東の方	舊	新	西の方	舊
大關	駒ヶ嶽	前頭	大關	國見山	國見山
横綱	常陸山	常陸山	横綱	梅ヶ谷	梅ヶ谷
大關	西の海	西の海	大關	太刀山	太刀山
關脇	高見山	駒ヶ嶽	關脇	鳳	玉椿
小結	朝嵐	大の川	小結	伊勢濱	伊勢濱
前頭	碇潟	碇潟	前頭	玉椿	鳳
同	大の川	朝嵐	同	綾川	上ヶ汐
同	大嶋	常陸	同	鷲瀬	
同	小常陸	尼ヶ崎	同	鶴渡り	有明
同	山泉	大綠	同	司天龍改め大鳴門	
同	大湊	千年川	同	緑島	綾川
同	立川	高見山	同	梅の花	鷲瀬
同	尼ヶ崎	浪の音	同	上ヶ汐	柏山
同	両國	大湊	同	有明	大崎
同	小柳	小柳	同	柏山	立川
同	千年川	小常陸	同	八國山改	有村
同	浪の音	常陸龍	同	柏戸	稲瀬川
同	八嶋山	山泉	同	瀧の音	黒瀬川
同	綾浪	羽島	同	藤見嶽改	
同	龍ヶ崎	神	同	土州山	司天龍
同	氷見濱		同	陣立	梅の花
			同	大崎	錦戸

まづ之を東方より見るにかねて噂の有りし如く大關駒ヶ嶽は前場所の不成績に依りて終に張出しとなり關脇西の海代つて正位の大關に据りその空位には大器晩成の高見山之も噂の如く前場所第一の好成績に依つて前頭七枚目より一躍關脇に昇進したるは異數といふべし小結朝嵐は星二つ殘したれど元の位置に踏み止り前頭筆頭には碇潟が大の川に代りたる外大綠は三枚、小常陸は八枚、山泉は九枚、大湊は四枚、立川は西より來りて三枚方何れも昇進したるが尼ヶ崎、兩國、千年川、浪の音等は相違いで五六枚下りたれど是等の力士は皆捲土重來すべき老功若くは花形力士とて深く失望するに足らず又西方に在つては梅、太刀、依然舊の如く退隱すべしと聞きし國見山も尚張出し大關の位置にて出勤すべし好漢玉椿は病後の身を發奮して登場し悲壯の相撲ぶりを見せたるも殆んど黒星のみにてあわれ關脇より終に前頭筆頭に陥落したりされど鳳は張出しより正位に昇りて東の緑島に代りて昇進したるものなり新入幕は東にあつて入間山改め柏戸、瀧の崎、西にあつて入國山改め藤島、土州山、陣立の入人にてこの中入間山、藤島の二人は前場所の陥落を恢復せしもの又氷見ヶ濱は張出しより正位に歸りて東の緑島に掘る、幕より幕下に陥落せしは東にて紫雲龍、神崎、男島、西にて稲瀬川錦戸の六人なり老功稲瀬も終に幕下に落ちしは憐れむべし



清華亭内
長唄の伊藤江亭
三太

賊魁鄭文七を擊殺す

▲郡民手を拍つて狂奔す

客年十二月廿一日の事なり寧海郡北二面を賊魁鄭文七の一行十四名通過せりとの情報大郎分隊に達しければ同隊附の東正路上等兵は外五名の補助員を卒ひて之を追跡し廿三日同郡島西面梧村洞に出でたる處折好く賊兵共の夕食を喫し居たるに出會なしければ棄てこれを三方より進擊し同賊猥狽して逃亡する賊兵を追擊して其の二名を殪したるが内一名は風采堂々として一見賊魁らしく思はるゝより其の所持品を檢したるに賊魁鄭文七の幼名鄭錫奎と記入したる名刺一枚と同文の認印を發見し猶は念の爲め同人を知れる同長及其他の者に檢せしめたるに全く鄭文七に相違なき旨を答へければ洞民一同は手を拍て狂喜なしたりとか

强盜殺人の破獄

▲五名共謀して逃走す

去る二日午後六時頃の出來事なり兼て强盜殺人犯として慶州監獄に收監しありたる五名の犯人共謀なして破獄を企て見張りの

看手二名に重

傷を負はせ洋劍二挺ピストル一挺を奪つて

逃走

し去れりとの事にて目下嚴重に捜索探偵中の由なるも未だ縛に就かずと

●怪腕美人汁粉　南山町天眞樓下と云はゞ表題に依て逐く御合點の動る皆の松園しるこ甘い辛いの上下戸共に兩刀使ひ分けの頗る御繁盛の汁粉屋あり御注文の用聞きから坐滑團れ給仕の孤別に至る迄一切一人で引受けての立居振りには流石三十起した女でも斯くは迚もと思はるゝ頭の髷から白足袋の爪先き迄寸分ぬかりのない其の名も目出度きれ千代と呼ぶ小娘が抑もの繁盛の因此の女鬼も十八の花盛りにて持つて生れた愛嬌は來る程の甘辛黨殿の御意に召し時には食指動いた身下長共の袖曳く事も再々ありとの噂はあれど妾の父は嚴格でとの一言が鐵條網程の防禦物でなかれ影喋さまだ白無垢の清い〳〵昔の花人の顔見ては先斯〳〵と只譯もない愛嬌振りにて來る程の人往く程の客稍いが可愛いの思し召しなれば見も角一枚手折らんとの不了見なき起しが警察の厄介にな

●新幕附近の賊　去る三日午後二時頃黄海道新幕の北四里瑞興郡東部面に五名の暴徒來襲せしかば新幕分遣所より二等兵一名補助員三名を出張なしその一名を殪し鮮銃三挺を鹵獲して引揚げたる面來電ありたるが是れ本年に於ける暴徒の出初めなりと

し給ふての汁粉食ひなどは偶々柔しい肱鐵砲を見舞はれるが落の不容貌なれば其の心懸けにて飲むが可い食ふが可いとの近邊の噂をさつとあら〳〵

●金海山の送致　客臘廿四日榮山浦分隊の手にて逮捕されたる暴徒の大首魁金海山は其後引續き取調べ中の處漸く終了せしに就き去る廿七日光州裁判所に護送せられたりと

●四日目の新町　新年三ヶ日は相應に賑ひたる新町遊廓四日目の揚り高を聞くに遊客合計百六十六名にして費消高は計九百七十五圓なりと

●嫁入の餅ドロ　高場郡生れの人夫申弘順（二六）は一日午後三時頃龍山元町三丁目森山赤次郎方の臺所より飾餅を窃取して取押へらる

龍山のいろ〳〵

●拾得物　大分縣生れ元町宮川紗男（十三）といふは去二日午後五時頃元町龍山座前にて金三圓餘を拾ひ警察に屆出でたり奇特なる少年といふべし

▲京城本町四丁目の浪華久米次郎（五〇）といふは龍山に年頭の門禮に來り祝ひ過ごして東町の街路に打作れ居たるを巡回中の警官に見付けられ散々御厄介になりて居る折りから久米公の知人が通りかゝりて連れ歸へれり

▲三日午後十時四十分頃龍山櫻町の佐藤雑貨店に同町の山崎某（五せ）といふ大工が酒買ひに來しに佐藤方にては生憎借利が皆出拂つて居し爲め其由を告げて斷りしに山崎は激昂へして怒り出し暴行を加へんずる有樣なるより同店より警察に訴出で警官出張して叱りつけて追返へせり

▲六日午前一時頃龍山親町中村藤吉（三）といふは何か言葉の行違ひより榮町遠山伊八（三六）を龍山座前の路上にて下駄を以て毆打し數ヶ所に微傷を負はせしが警察の厄介になり結局目出度さ餘りての出來事とて說諭放免

●演藝　歌舞伎座の活動寫眞、浪花館の浪花節、壽座の新派劇、京城座の新舊合同劇等何れも新年の事とて非常の大當りなり、永樂亭も來る十日頃より源氏節、落語、新内等の諸藝大寄せを開演の筈術任壽座伊東文夫一派今七日の替りは一番目「何れあやめかかきつばた」六幕と二番目は嵐に羅井茂兵衞優が好評を博したる「土屋主税」二場にして重なる配役左の如し

厩口一郎、大高源吾（小泉三郎）、藝妓旭屋小千代、勝田新左衞門妹れ園（藤島紫水）、車夫鯱吉（高井琴哉）倉田管細川家臣坂本（芳川春峰）、島者夢幻齋仲間鹿造　北秋喜三郎）姿れ金（横山研太郎）堀内柳之助、土屋主税、小泉英二郎）遠藤勇、細川家臣落合（泉英）堀内合嬢芳子（小水野完美）堀内宮齊寶井其角（伊東）

●活動寫眞好評　歌舞伎座開演中の聲色入り活動寫眞は相變らず好評を博し居れるが更に本日より「伽羅先代萩」御殿より床下まで「れ染久松」野崎村久作宅より鍋の別れ迄を差加へ例の土屋劍壽の巧妙なる聲色入りで御目に掛くる由

各地の新聞

▲觀世喜多の謠初　兩宗家共勅題に因みて「新年雪」と題する謠曲を作り元日謠初めを爲したる由なるが其文句は左の如し

辨月寒は來にけり新玉の〳〵、年の始に降る雪は、豐のしるしや限りなき、國の光はいやましに、月日と共に輝きて、千代萬代も榮ね行く日出度かりける、御代とかや〳〵（觀世）

立つとし祝ふ松ヶ枝の、緑の色も白妙に、今朝降り積る雪見れば、楽にしられぬ花の色、千歳見るともあかざらん（喜多）

▲新彗星現はる　今年四月になればハレー彗星が肉眼でも見れる樣になるといふことであるが最近の外國新聞には去る十二月七日英國プリンストン天文臺のダニエル氏が新規に彗星を發見したといふ事を傳へて居る夫から鍼既天文臺でも新彗星の軌道を計算する爲めに毎晩寫眞を撮つたが既に地球に近寄つた後で彗星は地球から遠くなつて居る時分である相で肉眼では見れない此の彗星は是迄肉眼で見れたものであるか何うか判らぬが執道の計算が出來たら勿論

▲新聞讀者の投身　新聞讀者だからといつて何か好かる筈であないか

角坪世を三分五厘で辛いと見す太鼓持どもあるものがは近頃の大格事況んや夫と日の出來事とあつては見事と云ふ可き也、所は東京一の六新聞櫻川讀者梅川平次郎（一二）は元日の朝湯に行つたまゝ歸らず午後四時頃同地海岸を距る一丁の海上に夫れらしき死骸の浮へるを双眼鏡で認め網を出して引揚げたるが原因は精神錯亂

●吉凶　本町五丁目　三一館判

十二月七日月齡十一國の廿六〇六白赤口壬　中危△一白　音信を待ち人を待つ事効空し其他良好の運勢日なり△二黒　交際上に憤怒を起し易し其他懸權なり△三碧　賣買取引貸借上損害起らん口舌の禍を招致する勿れ△四緑　不和中絶爭論を愼しむべし人より過分の要求にあふあらん△五黄　疎漏過失を生し易し自負跡大にして恥辱を受くる勿れ△六白　疑惑多き日にして又闘爭多き日なり常務事業を堅く守るべし△七赤　讒謗中傷の起り易き日なり同僚間爭鬪あらん△八白　交通の日なり大抵の事吉旅行轉住勿なし△九紫　謹愼を要すべき日なり特に公開の席に運なる事注意すべし

●天氣豫報（自六日午後六時至七日午後六時）

南東風曇但少雪

廿六日（華氏）最高溫度 四五、五　最低溫度 三一、五

農務局長中村彥母秀子儀病氣の處療養不相叶本月五日午前二時二十分死去致候間此段謹告仕候
追て本月八日午後一時大和町三丁目農商工部官舍出棺旭町三丁目護國寺に於て葬儀相營申候
明治四十三年一月五日
親戚　山田松熊
友人　木内重四郎
　　　俵孫一
　　　本田幸介

▲無料紹介欄▼

入事部

●徒弟入用 十三歳より十五六歳迄五六名採用 明治町一丁目 糸山裁縫所

●求職 昨今渡韓の青年拾九歳事務員又は商家に雇れたし氏名在社(四九〇)

●運動部 病院又は醫院藥局へ ゲーナー生(四九三)

●年齢十五歳位の小供入用 希望者は來談あれたし 三井物產京城支店

物件部

●貸家 南山町二丁目二階建十疊と三疊と階下二階六疊三間廻縁井戸物置湯付家賃低價 氏名在社(四七八)

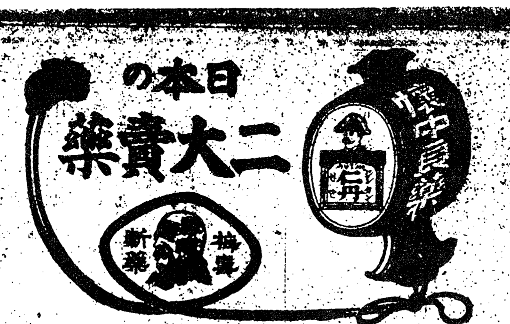
●貸家 北部齋洞廿九の四貸家あり宮内府其他韓國各官衙には便益の地希望に應じ賃登上候

●貸家 京城吉野町朝鮮四四番屋敷付官吏又は會社員向希望者は電七四番へ

●電話讓渡れたし 氏名在社(四九六)

●電話付き貸間あり 南山町二ノ一〇一 福井

廣告



代理店

京城南大門通三丁目
新井藥房本店
電話(九百四番 千六十八番)

京城本町三丁目
新井藥房分店
電話(四七八番)

統監府御用
宮内府御用

綿物、表装、金銀屏風、額面、襖、壁張、天井張、雨戸、障子、硝子戸、其他表具、建具一式

表具 建具 京城旭町(電話二一八七番)
商 石川辰次郎

電話 千五百三番
日韓新聞 京城旭町三丁目
廣告取扱 京城廣告社
主任 瀬生進三郎

京城相生町(南門湯横)

神戸賣生分院
京城梅毒病院

◎花柳病専門並、痔(注射療法)
●入院隨意●
(電話一二九四)
院長 醫學得業士 蘆田耕平

貨物運送取扱
税關貨物取扱
貨物引換證發行
危險擔保附運送
品代金付貨物運送

内國通運株式會社

京城南大門驛前
京城支店
電話一七九番
電話七〇八番

仁川驛前
仁川出張所
電話五一一番

草梁驛前
釜山出張所
釜山驛前
草梁驛前
電話五一六番
電話六三七番

龍山驛構内
龍山出張所
電話二〇六番

きゝめのある
温泉湯

鳥の温泉は左の如き病に最も妙なり
一かつけ、痔疾、リウマチス、腰痛、中風、ひぜん、梅毒、りんよこね、子宮病、血の道、神經痛、やけど、マラリヤ、せん腸胃加答兒、凍傷、がんがさ、其他内用には鐵冷温泉を用すれば尤も効能あり

京城本町一丁目郵便局前
貸席
鐵冷温泉
電話千四百十一番

石川高等法院判事閲 小田校閲
今村内部警務局警視閲
日韓印刷株式會社編輯部編纂

◎印刷鮮明 ◎類集整然
◎校正嚴密 ◎攜帶便利

統監府 裁判所 監獄署 警察署
法規提要

●全一冊●紙數凡六百頁〇菊判半截形●定價金六十錢

右發賣豫報以來未だ旬日に滿たざるも意外の好評を博し日々數百部の御注文に接し感謝の至りに候就ては猶一層奮發致し大日本協約、官制、官規、官等、俸給及俸給其他諸給與、任用、裁判所、警察署、監獄署の八項に増加し本月一日より現行法規として些の遺漏なきは勿論索引を附して見出に易からしめ、餘白をも存して隨時御記入の便を謀りたる等設備の完全を期し聊か愛顧に酬ゆるの微意に有之就ては更らに本月十日迄御申込の順序に依り配本に着手可致候間此期間に於て御購入の御方に限り前回豫報の通り特別減價を以て御高需に應じ可申御購讀を御用仰せ付られ度奉願上候敬具

明治四十二年十二月一日
京城
日韓印刷株式會社出版部

京城明治町二丁目(佛國教會前)
辯護士
特許辯理士
岩田仙宗
電話三五四番

●電話開通 八百二十五番●
●唐津石炭直輸入商
並ニ平壤無煙炭あり
京城太平町一丁目九五
南大門高等女學校裏通り
近藤商店

開店廣告
今般左記の處に開店致し破格勉強可仕候間陸續御用命の程奉願上候

牛肉・鶏肉・豚肉
京城本町一丁目理事廳前
阪本精肉店
電話一三一九番

時節柄敷物及夜具等新調仕り室内の設備も相整申候
御客様に對しては叮嚀親切を旨とし調理の義は從來よりも一層勉強可仕候間倍舊の御引立奉願候

京城南山町四丁目
原金旅館
(電話一一一五番)

特約販賣 自製
漬物 味噌 醤油 製造元
京城本町五丁目
大上商店
(電話二五一番)

和洋酒、罐詰、穀物、麵類、銘茶、罐詰、乾物、物食料雜貨、ビール、米糀、塩辛、日本食鹽、荒物各種特約販賣、尚御望に依り商品切手調進仕候

改修落成と電話開通
久しく改修中の處漸々落成仕候間不相變御贔負の程願ます

京城旭町二丁目(名古屋城横へ入る)
待合 醉月
電話二六五番



美術書畫
襖、壁、天井張
京城旭町二丁目
桂萬吉
(電話六二七番)

誠實勉強

開店廣告
御洋食
料理
すき焼
辨當出前仕候

京城鍾路裁判所裏
鍾路軒

◎新漬大根大賣出
◎新漬澤庵◎白菜漬◎奈良漬

官製豐元賣捌。陸置器具一式。肥料。種苗。新炭。日用雜貨。家具。工業農業
消毒用藥品一式
農商工部國營
種畜場御下品

諸官衙御用達
京城本町一丁目(長谷川町筋)
三輪商會
電話三八六番

綿わた綿ワタ
たやすくうります
ふとん地色々、ふとん調進、太物類、洋物類

京城明治町一丁目四ツ角
御問屋
唐川商店
電話二六一番

瑞西タバン時計會社韓國代理販賣店
米國ウォルサム時計
米國アンツニヤ時計
韓國特約販賣店
獨逸國スカンジヤ自轉車特約販賣店

時計卸商
仁川本町三丁目
喜多金光堂本店
電話七五〇番

時計卸小賣
京城本町二丁目
喜多金光堂支店
電話千十五番

蒸溜 牛乳 消毒
京城大和町一丁目
平山牧場
電話一三三

本院は左記の時間割を以て左の諸氏に依賴し各科の診療に從事す入院の需めに應す

外科花柳病科 診察時間午前九時より正午に至る
前漢城病院長 ドクトルメヂチーネ 和田八千穗

内科小兒科 自午後一時至午後四時
前仁川病院長 醫學士 松村三省

眼科内科 自午後一時至四時
東京醫科大學選科卒業 院主 瀧澤喜太郎

耳鼻咽喉科 自午後一時至四時(但し毎月四日十五日廿五日)
醫學得業士 赤羽學

婦人科 自午後一時至四時
醫學得業士 天ヶ瀬健六

龍山居留民團囑託
龍山榮町(文平山麓)
龍山醫院
院主 瀧澤喜太郎

銀行一般業務精々御便利に取扱可申候

資本金 參百萬圓
積立及繰越金 九拾萬圓

株式會社 十八銀行 京城支店
京城南大門通
(電話四二〇)

本店 長崎市濱町
支店 出張所
京城、龍山、仁川、木浦、釜山、元山、羣山、群山
大阪、熊本、佐世保、嚴原、五島、壹岐

韓國 日本

其他日本、韓國樞要地、及露領浦鹽に爲替取引先あり

貯蓄預金 一口壹錢以上何程にても御預り申す(利息日步壹錢四厘)

長崎貯蓄銀行代理(十八銀行京城支店)

★株式會社 百三十銀行 韓國支店
京城本町二丁目十五番戸
電話五十八番

資本金五百萬圓
頭取 安田善三郎

爲替取組先

畿内 大阪、京都、西陣、伏見、奈良、山、八木、高田、田原本、堺、貝塚、岸和田、御影、兵庫、神戸、平野

東海道 東京、横濱、大磯、甲府、静岡、住吉、茨木、下市、名古屋、半田、熱田、四日市、津、山田、桑名、松阪

東山道 彦根、八幡、大津、長濱、大垣、岐阜、前橋、伊勢崎、宇都宮、福島、若松、青森、秋田、能代、土崎、高崎

北陸道 小濱、福井、敦賀、鯖江、金澤、大聖寺、富山、伏木、新潟

山陰道 米子、境、松江、久手、大田、宮津、舞鶴、新舞鶴、豐岡、鳥取

山陽道 玉島、福山、柄、府中、尾の道、三原、廣島、岩國、山口、柳井、龍野、姫路、西大寺、笠岡、高梁

南海道 下關、萩、徳山小郡、長府、平生、牛窓、味野、岩見、岡山、新宮、串本、御坊、田邊、和歌山、尾鷲、州本、撫養、德島、高松、丸龜、高松、八幡濱、川之石、宇和島、今治、西條、松山、三津ケ濱

西海道 鹿方、飯塚、博多、福岡、若松、門司、久留米、若津、中津、小倉、大分、行橋、佐賀、佐伯、別府、伊萬里、牛津、長崎、佐世保、宮崎、鹿兒島、八幡、長崎、熊本

北海道 函館、小樽、札幌

台灣 臺北、臺南

清韓國 仁川、釜山、元山、鎮南浦、平壤、木浦、羣州、大邱、群山、安東縣、晉州、尙州、馬山

銀行一般の業務精々便利取扱可申候

日本郵船株式會社 仁川出張所 廣告 電話十番

濟物浦出帆

仁川海岸通
電話三九番
貨物及船客取扱店
郡回漕店

●釜山、長崎、門司、神戸行
山東丸 一月十五日午後三時出
●大連行
高砂丸 一月十八日正午時出
●大連、芝罘、秦皇島行
山東丸 一月 三日午前六時出
●大連行
酒田丸 一月 三日正午時出
●釜山出帆元山、淸津、浦鹽行
文時丸 十二月廿九日午後四時出

御注意 …